

令和元年度『接続期の教育・保育研修』実施報告

令和元年8月20日(火)、静岡県総合教育センターを会場に『接続期の教育・保育研修』を開催しました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点とした幼小接続期の理解を深めるとともに「静岡県版幼小接続モデルカリキュラム」を活用して、園・校における接続期のカリキュラムについて考えることを目標に、講演や講義、演習、グループワークを行いました。幼稚園を始め、保育所やこども園、特別支援学校の教職員、行政関係者120名が参加しました。



【講演】 「幼保の遊びと小学校のつながり」講師 静岡大学教育学部名誉教授 國宗進氏

幼児教育に関する動向を確認し、その具体化を算数・数学という視点から実践事例をもとに考えました。



(参加者の声)

- ・ 日々の保育の中で、何気なく行っていることに算数的要素がたくさん含まれていることが分かり面白いと感じた。その面白いという思いを子どもたちと共有できるように意識した環境を投げかけていきたい。
- ・ 日々の実践の中で、保育者が小学校で習う算数の要素を意識していくことで、子どもたちの興味が広がり、遊びの中で小学校とのつながりが生まれてくることが分かった。

【グループワーク】 「自園における幼小のつながりについて」

所属する園や所における幼小の連携・つながりの現状を整理するためにKPT法を用い、視覚化しました。その後、まとめたものをもとに発表し、意見交換を行いました。



(参加者の声)

- ・ グループワークをとおして自園の取組や課題を見つめ直すきっかけとなった。
- ・ 他園の活動や連携の取り方、課題を聞くことができ、自園に取り入れられることを考えることができた。
- ・ 他市町の状況を聞き、課題が多いことに驚いた。合同研修会の実施など難しい課題はあるが、今できることは何かを考え、少しずつ実践していきたい。

【講義・演習】 「幼・小の円滑な接続を目指して」

園や所が抱えている課題や接続期の教育で大切にしたいこと、接続期のカリキュラムの作成について理解を深めました。また、演習では、子どもたちの姿を10の姿で見て保育を振り返り、どのように改善していったらよいか考えました。



(参加者の声)

- ・ 幼小それぞれの共通点や相違点を理解したうえで、自園の実態を踏まえ、できるところから取り組んでいきたい。エピソードの見取りを園内研修に取り入れ、共通理解を図っていきたい。
- ・ 10の姿を視点として子どもの表れを捉え活用していく方法を具体的に教えていただき理解が深まった。
- ・ 幼小の接続で大切にすることをたくさん学ぶことができた。園の先生方にも伝え、10の姿を意識した保育を行い、小学校への円滑な接続ができるよう努めていきたい。
- ・ 演習をとおして、10の姿に照らし合わせ話し合うことが、個の理解や遊びの充実、職員の専門性の向上につながっていくことを確認できた。